



問

経費を節約するための エコドライブ推進を求める

答

実現に向けて取組むことを約束する

問

大木町で掲げているエコ・スイッチ・ONプロジェクトの取組みの中で、公的に利用している公用車等のガソリン及び軽油の使用量は年々減っているように見える。その分析と評価は。

環境課長

平成26年におけるガソリン自動車の台数は合計14台。使用したガソリンの量は9,317リットル。その費用は約140万円となっている。

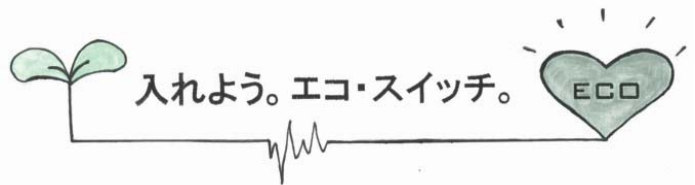
また、軽油の使用量は3,843リットル。その費用は約50万円で、主にダンプトラックと草刈り用のトラクターの燃料として使用している。

平成26年度のガソリン使用量の減少要因としては、ハイブリッド車や低燃費車を導入したこと等によるものと考えている。

ただ、今後も公用車の使用機会が増え、ガソリン使用量が増加していくことも想定され、目標年度における目標達成に向けて効果的な省エネ対策を講じる必要がある。

問

お金をかけて車等のハードをかえるのではなく、運転手自身のエコドライブという運転技術のソフト対策に目を向けられておられるかどうかの問題。エコドライブ講習会は無料ででき、すぐにも経費削減に貢献できる。役場内の昼休み1時間に見える当たり前の行動だけではなく、エコドライブという目に見えない意識の向上を図らないことは、



町長

本町のエコ・スイッチ・ONプロジェクトにはならない。是非とも職員の意識向上を図るために実践していただきたい。

常々環境問題については地球規模で考えて地域で取組むことが最も大切だという持論を持つている。役場職員が率先して町民の皆様に行動でお示しすることが何より重要。私からも指示をし、総務課長と

意見

ガソリン代に限らず、経費というものは町民の皆様の税金から出ているということとを改めて認識して、環境の先進地である大木町としての立場、そして職員全員の意識向上を図っていただくことが目的なので是非、理解いただきたい。

も十分協議をして、実現に向けて取組むことを約束する。

